

交通ルールを“マモラナイ”心を科学する

～あんぜん・あんしんな街作りと人間工学～

システム工学科 人間工学研究室

みなさんは、交差点で自転車に乗っていたり歩いているとき、他の車が飛び出してきて「アブナイ！」と思ったことはありませんか？

「アブナイ！」体験が、生活道路の交差点上でなぜ起こってしまうのでしょうか？

交差点で危ない行動を引き起こす“マモラナイ”心についての研究成果を紹介します。

事故が多いのは、幹線道路ではなく生活道路！？

生活道路(道幅5.5m未満の道路)にある交差点では、近年事故が増加しています。「幹線道路の大きい交差点の方が事故は沢山あるんじゃないの？」と思われがちですが、**交差点事故の75%は生活道路**で起きています。

なぜ、生活道路の交差点における事故が多いのでしょうか？

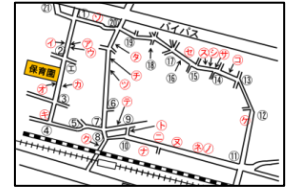


図1. 調査を行ったエリアの概略図

事故を防ぐための“道路反射鏡”が事故を誘発？！

距離や速度感が
つかみにくい

凸面鏡によって
生じる死角

左右が逆に映る



図2. 道路反射鏡とその特性

道路反射鏡(カーブミラー)は、道路の死角を補うために、生活道路上に設置されていますが、**人間工学的にあまり良く機能していません**。道路反射鏡は、事故を防ぐために設置されていますが！しかし！道路反射鏡は、『鏡像問題』という鏡特有の性質を持っていることから、設置する位置によって鏡像が異なります。鏡像に映った情報を、車や自転車で走行中に、人間は瞬時に正確に認知-判断できるのでしょうか？

道路反射鏡以外の危険を見つける手掛りは何だろう？

道路反射鏡は、道路の死角を補うためだけでなく、**「そこに路地があるよ！」**

という**路地の存在を教える手掛り**としても使われます。

しかし、生活道路交差点において、道路反射鏡が必ず設置されているわけではありません。

道路反射鏡が設置されていない交差点では・・・？

人間は、路地の存在を予測し、確信するために、一体どのような手掛りを使って判断しているのでしょうか？



図3. 道路反射鏡以外の路地認知手掛り(道路標示)